あけましておめでとうございます。

今年こそは、新型コロナウイルスの影響下から解放された正月を迎えられると思っていましたが、残念ながら第８波の中での正月となりました。

市民の皆さまには、感染拡大を防止するため多くのご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの影響に加え、ロシアによるウクライナへの侵攻を契機に物価高騰の影響など厳しい状況に見舞われました。

そうした中でも、本市にも明るいニュースがありました。特に大きな５つのニュースを紹介します。１つ目は、持続可能な都市づくりの取り組みが優れているとして、内閣府から「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されたことです。ＳＤＧｓの達成に向けて地域課題に迅速かつ適切に対応し、市民サービスのより一層の向上を図ることを目的として、企業と協定を結ぶなど公民学連携による活動に取り組んで参りました。２つ目は、「カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言し、環境大臣から「脱炭素先行地域」（北九州都市圏域18市町）にも選定されたことです。２０５０年までに二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けて取り組みを進めているところでございます。３つ目は、中学校給食について、生徒の健全な発達と食育の推進を図ることを目的として、希望する生徒だけが給食を食べる選択方式から、生徒全員が栄養バランスの取れた給食を食べることができる全員喫食方式に大きく舵を切ったことです。あわせて保温ができる食缶で給食を提供する方法に変更したことで、生徒たちは温かい給食をおいしく食べることができるようになりました。４つ目は、ＤＸの推進により、届出等のオンライン化を大幅に進めたことです。これまで、市役所の届出等については、窓口で行っていましたが、市役所に来なくてもスマホがあれば、オンラインで24時間、どこからでも手続きができるようになりました。コロナワクチン接種の予約や接種券の再発行、上下水道の利用手続き、粗大ごみ回収の申し込みなど全部で１９０以上の届出

直方市長 大塚進弘（おおつかのぶひろ）

等が、オンラインで手続き可能となっています。

５つ目は、中心市街地の賑わいづくりの取り組みとして、古町商店街の空き店舗を活用した直鞍ビジネス支援センターの新しい相談窓口となる「のおがたベース」をオープンしたことです。のおがたベースは、業種に関係なく、あらゆる事業の経営相談にも対応できる相談窓口となっています。

本年の春には、子どもたちの笑顔と市民の方々のパワーをつなぐ場として、地域子育て支援センターや多世代交流スペースを取り入れた施設「こっちゃ」がオープンします。商店街に新たな賑わいが生まれることを期待しています。

本年も、２０３１年の市制１００周年に向け着実な歩を進めるために、市民・民間事業者・教育機関・行政が目標を共有し、地域課題・社会課題の解決を図るとともに、希望の持てる地域社会づくりを目指し、引き続き地域経済の発展や市民生活の安定のため尽力して参ります。市民の皆さま方のご理解とご協力をお願いいたしまして新年のご挨拶といたします。

令和五年元旦

直方市長　大塚進弘

中学校給食

のおがたベースでの相談の様子